

「方言コスプレ」とは何か?

田中ゆかり (日本大学文理学部)

【アウトライン】

1. 導入
2. 「方言コスプレ」とは?
3. 「方言コスプレ」顕在化の背景
4. 「方言コスプレ」と3つの「方言」の層
5. データからみる3層の「方言」
6. 「方言コスプレ」は東京勝手か
7. 「方言コスプレ」からみえてくるもの

【スライド掲出図表関連調査概要】

●2007年調査●

調査年: 2007年

東京23区内の私立大学に通う265人

(平均年齢) 18.98歳(1976-1988年生まれ) (性) 男性92人、女性173人

(生育地) 首都圏188人/非首都圏77人(北海道2人、東北11人、北関東24人、中部20人、近畿2人、中国5人、四国5人、九州8人、沖縄2人) ※首都圏: 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県

●2009年三川町調査●

調査年: 2009年

※日本大学人文学研究所共同研究「山形県三川町方言の総合的研究(代表: 荻野綱男)」による

三川町居住の中学生以上の男女265人

(性) 男性131人、女性134人

(年層) 10-30代84人、40-50代95人、60代~83人 (平均年齢) 48.9歳

●2010年全国方言意識調査●

調査年: 2010年

※国立国語研究所基幹型共同研究「多角的アプローチによる現代日本語の動態の解明(プロジェクトリーダー: 相澤正夫)」による

調査対象: 層化三段無作為抽出法による16歳以上の全国の男女4,190人

(回収率) 1,347人から回答が得られた(回収率32.1%)

(分析対象) 1,341人(居住地とは別に質問した15歳までに一番長く生活した地域を「出身地(出身地ブロック)」。出身地を「海外」「わからない」とした6人については地域差についての分析から除外

(出身地ブロック) 北海道66人、東北128人、北関東85人、首都圏273人、甲信越72人、北陸44人、東海144人、近畿198人、中国89人、四国53人、九州169人、沖縄20人、海外4人、わからない2人 ※首都圏: 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県 ※その他・不明: 海外・わからない

【スライド掲出図表 (調査データ)】

表. 07調査「本方言」「ジモ方言」「ニセ方言」場面別使用率(%)

方言種類	場面	首都圏		非首都圏	全体%	全体n
本方言	対家族会話	42.5 <<		85.7	55.1	263
	対地元友人会話	41.9 <<		86.8	55.0	262
	対大学友人会話	34.4 <<		59.7	41.8	263
	対家族メール	33.3 <<		59.7	41.1	263
	対地元友人メール	34.4 <<		63.6	43.0	263
	対大学友人メール	30.1		33.8	31.2	263
	対家族手紙	24.7		35.1	27.8	263
	対地元友人手紙	27.4 <		40.3	31.2	263
	対大学友人手紙	24.7		22.1	24.0	263
ジモ方言	対家族会話	14.5 <<		49.4	24.7	263
	対地元友人会話	9.1 <<		46.8	20.2	263
	対大学友人会話	6.5 <		15.8	9.2	262
	対家族メール	9.1 <		24.7	13.7	263
	対地元友人メール	7.5 <<		29.9	14.1	263
	対大学友人メール	7.5		10.5	8.4	262
	対家族手紙	5.9 <		19.7	9.9	262
	対地元友人手紙	6.5 <<		22.4	11.1	262
	対大学友人手紙	5.4		10.5	6.9	262
ニセ方言	対家族会話	41.2		37.7	40.2	264
	対地元友人会話	47.1		44.2	46.2	264
	対大学友人会話	54.0		42.9	50.8	264
	対家族メール	26.2		15.6	23.1	264
	対地元友人メール	48.1 >		29.9	42.8	264
	対大学友人メール	47.1 >		33.8	43.2	264
	対家族手紙	11.2		9.1	10.6	264
	対地元友人手紙	12.8		13.0	12.9	264
	対大学友人手紙	12.8		19.5	14.8	264

<< / >> p値<0.01
 < / > p値<0.05

表1. 「本方言」「ジモ方言」「ニセ方言」場面別使用率(%) (2007年調査)

表. 「出身地方言」使う理由

理由	出身地方言(%) (n=948)
自然に出てくる	84.2
家族・親戚の使う方言	31.9
親しい感じを出せる	28.9
友人・知人の使う方言	27.0
雰囲気にふさわしい	11.9
内容にふさわしい	8.0
おもしろい感じを出せる	5.3
新しい感じを出せる	0.8
かわいい感じを出せる	0.4
その他	2.0
わからない	1.2

表2. 「出身地方言」使用理由
(2010年全国方言意識調査)

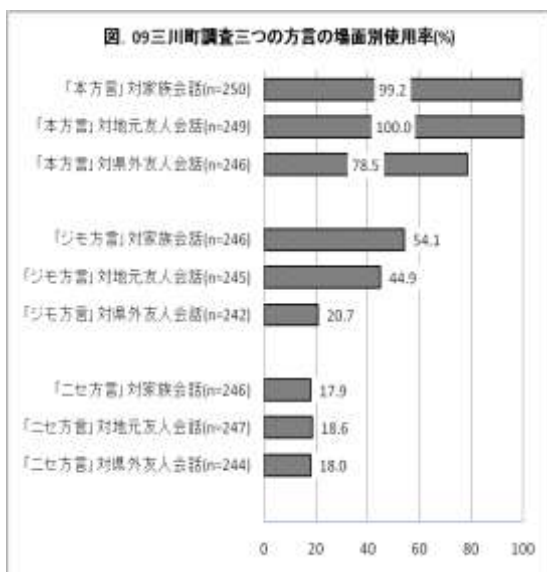


図1. 「本方言」「ジモ方言」「ニセ方言」場面別使用率(%)
(2009年三川町調査)

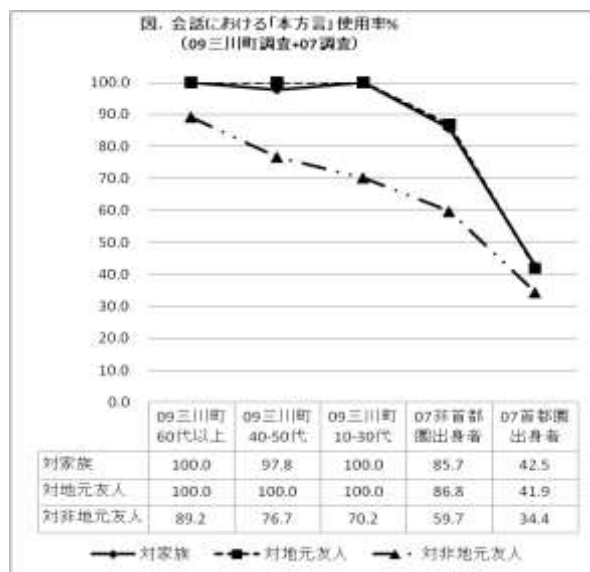


図2. 会話における「本方言」使用率(%)
(2007年調査+2009年三川町調査)

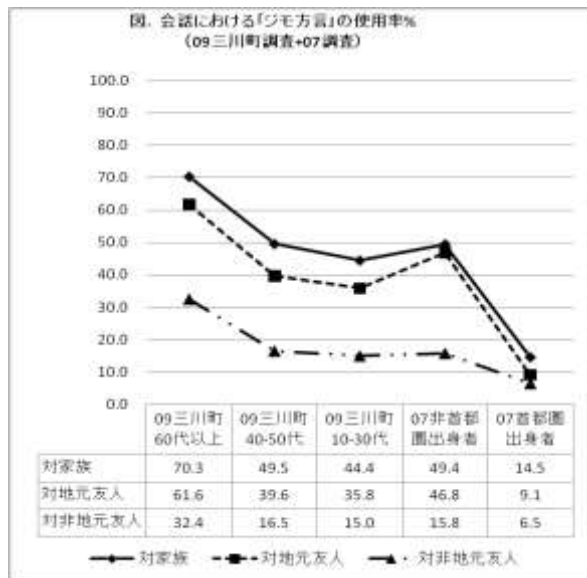


図3. 会話における「ジモ方言」使用率(%)
(2007年調査+2009年三川町調査)

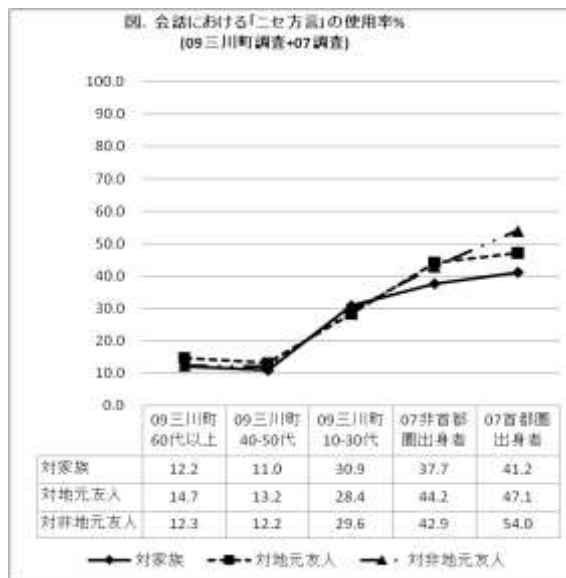


図4. 会話における「ニセ方言」使用率(%)
(2007年調査+2009年三川町調査)

【スライド引用文献一覧】

金水 敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店
 小林 隆(2004)「アクセサリとしての現代方言」『社会言語科学』7(1), 社会言語科学会
 真田信治(2000)『脱・標準語の時代』小学館
 柴田 武(1958)『日本の方言』岩波書店 (岩波新書)
 田中ゆかり(2001)「ケータイ・メールの「おてまみ性」」『国文学 解釈と教材の研究』46(12)学燈社 (2010
 『首都圏における言語動態の研究』笠間書院)
 田中ゆかり(2011)『「方言コスプレ」の時代——ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店
 田中ゆかり・前田忠彦(2012)「話者分類に基づく地域類型化の試みー全国方言意識調査を用いた潜在クラス
 分析による検討ー」『国立国語研究所論集』3 (国立国語研究所)
 徳川宗賢(1985)「ことばづかひの風土性」九学会連合日本の風土調査委員会編『日本の風土』弘文社
 新田 実(2003)「仮名漢字変換<方言モード>開発の道のり」『月刊言語』32(5)大修館書店
 日本方言研究会編(2005)『20世紀方言研究の軌跡』国書刊行会
 山西由里子(2007)「女子大生の書き言葉コミュニケーションー媒体差表現の男女差からー」『語文』128 (日
 本大学国文学会)